

平成17年度 大学院工芸科学研究科博士前期課程 学位記授与式
学長告辞

今日、ここに、修士課程を無事終えられた414名の皆さんに対し、心からお祝いを述べたいと思います。また、皆さんの勉学・研究を支えてくれた、ご家族を初めとする多くの方々に対し、敬意を表する次第です。また、外国から来られ、今日の修了式を迎えられた留学生の皆さんに対しても、心からの祝福を送りたいと思います。

京都工芸繊維大学は、昭和63年に工芸科学研究科を設置し、昨年までに、4237名の修士号取得者を生み出し、多くの知的財産を着実に蓄積してまいりました。本日は、皆さんに、4238号から4651号までの修士の学位を授与させていただきましたが、皆さんの研究業績は、本学の新しい知的財産として付け加えさせていただくことになります。そして、皆さんの後からやってくる学生の研究のために、また、それぞれの学問分野の新たな展開のために、さらに、技術革新や新たな産業の創生の素材として利用されることになります。

皆さんは、学部卒業の後、それぞれの目的をもって大学院修士課程に進学されました。そして、2年間の教育課程で研鑽を詰まれ、輝かしい成果を挙げ、本日、目度く修了式を迎えられました。皆さんの中には直ぐに社会にでる人もいるでしょうし、これから博士課程で更に研究に従事する人もいるでしょう。あるいは、祖国に帰り、祖国の発展のために働く人もいるでしょう。それぞれの将来計画の実現に向け、勇往邁進されることと信じています。その際、この修士課程での研鑽の成果を十分に生かし、人生の新しい段階を切り開くよう一層奮励努力されることを祈って止みません。

皆さんの新たな出発にあたって、大学院課程を修得することの意味について一言述べさせていただきたいと思います。大学院での教育を受けるということは、どのようなことを意味するのでしょうか。今、改めてその意味を、皆さん一人一人に考えて頂きたいと思います。

その答えは、今後皆さんには、専門家（プロフェッショナル）として活躍することが期待されているということです。日本では、まだ「専門家」の概念が未成熟で、専門家とは何かということが社会的に十分認識されていません。専門家について、英語では、「スペシャリスト」と「プロフェッショナル」がありますが、私は、プロフェッショナルを専門家と呼びたいと思います。

専門家であるということには幾つかの要件があります。専門家教育に詳しい東京大学の佐藤学先生が、専門家の要件として次のように指摘にしておられます。

まず、第一に、専門家は何よりも公共的な使命、すなわち、パブリック・ミッションによって成立している職業であるということです。

専門家は、私的な利害とか特殊な要請ということではなくて、公共的な使命として健全な社会を作ること、あるいは、教育等による差別のない社会を作ること、または、高い文化水準の国家をつくること、など、公共的な使命を背負った職業なのです。

従って、例えば、料理人や熟練工はスペシャリストではありますがプロフェSSIONALではありません。しかし、例えば、医師や弁護士はプロフェSSIONALです。

第二は、専門家は一般の人々が持ち得ない高度な知識と技術を持っているということです。公共的な使命を果たしていても、専門的な教養・知識・技術を伴わない人は専門家ではありません。

第三は、専門家は、一般的に大学院段階において養成される職業なのです。大学院教育を受けるということは、単に学歴を重ねるということではなく、高度の公共的な使命を担う専門家としての教養・知識・技術を身につけるために研鑽を積むということです。

第四は、専門家は自律性を持つということです。皆さんの多くは、学会に所属し発表などをされたと思います。このような、大学院段階における養成と研修のシステムをもつことにより、専門家は自律性が保証されるようになります。

第五は、専門家の多くは、自律的な資格認定制度をもち、資格の認定と剥奪により、専門家の適切性が判断されるということです。

そして、最後に、専門家の要件は倫理綱領を持っていることです。大学においてもそうですが学会・医師会などは、倫理綱領を定めています。つまり、自分たちの倫理を自己管理しているということです。自律性を保証されている代わりに、その自由を自分たちの責任において自己管理できるという倫理綱領を持っているということです。

「プロフェSSIONAL」という言葉は、「神の宣託」を意味する「プロフェス」という言葉に由来するもので、「神の宣託を受けた者」という意味だとされています。

現代では、専門家がスペシャリストの性格を強めてきたといわれています。スペシャリストとプロフェSSIONALは、優れた技術をもつという意味では共通点がありますが、少なくとも、その使命のもつ公共性において異なるのです。

最近起きた、マンションやホテルの耐震強度偽装問題は、建物の構造設計という高度に専門的な知識をもつ専門家であるべき建築士が社会の信頼を裏切る行為をして出来事でした。最近では、これに限らず、医療・法曹および様々なビジネスの分野で、専門家の倫理観の欠如に起因する事件が起きています。

このような問題や事件は、一面では、倫理的な問題だけでなく公共的な使命を果たすことの難しさを示しています。現代では、社会システムが複雑化、多岐化し、拡大化したため、専門家としての責任を果たすことが難しくなっています。例として、現代の医療および医療技術の分野、ビジネスの分野、産業および資源の分野、あるいは、都市計画などの分野の現状を考えてみてください。専門領域に自分で責任を持ち、専門家としての仕事を遂行しようとすればするほど、複雑で総合的な仕事もしなければならなくなっています。専門家は、その人が持っている技術や知識だけで規定されるのではなく、それらが実践においてどのように活用されているかによっても規定されるのです。

このように複雑で困難な社会に旅立たれる皆さんに強く希望することは、皆さん一人ひとりがパブリック・ミッションを背負っているということを肝に銘じ、「プロフェSSIONAL」として、仕事をやっていただきたいということです。

公共的な使命を果たしているのか、倫理的に正しいのか、また、公共性という視点で社会的に役立っているか、私的な利害だけの仕事になっていないかを常に考え、専門の仕事をしていただきたいと思います。

皆さんは、明日からまた新たな挑戦をはじめられることになりますが、皆さんの活動が世界の人々の幸福に大きく貢献することを祈って、私の告辞と致します。

平成18年3月24日
京都工芸繊維大学長
江島義道